

平成26年度実施施策に係る政策評価書

(内閣府26-5(政策3-施策①))

| | | | | | | |
|------------------------------|--|-----------|--------|---------|--------|--------|
| 政策名 | 遺棄化学兵器廃棄処理事業の推進 | | | | | |
| 施策名 | 化学兵器禁止条約に基づく遺棄化学兵器の廃棄処理 | | | | | |
| 施策の概要 | <p>第2次世界大戦中、旧日本軍によって中国に遺棄された化学兵器(毒ガス兵器)について、化学兵器禁止条約(1995年批准、1997年発効)にしたがい、日本は「遺棄締約国」として、中国における日本の遺棄化学兵器を廃棄する義務を負うこととなった。</p> <p>平成11(1999)年7月、日中間で覚書を締結し、平成27(2015)年3月に、「遺棄化学兵器問題に関する基本方針について」が閣議決定され、平成27年4月以降においても、本問題に取り組み、環境と安全を最も優先しつつ、中国国内で廃棄を行うこと等を確認している。</p> | | | | | |
| 達成すべき目標 | 旧日本軍の遺棄化学兵器の廃棄処理を着実にを行う。 | | | | | |
| 施策の予算額・執行額等 | 区分 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | |
| | 予算の状況(百万円) | 当初予算(a) | 20,787 | 21,125 | 26,700 | 31,434 |
| | | 補正予算(b) | △ 16 | △ 113 | - | |
| | | 繰越し等(c) | 524 | △ 3,265 | 3,014 | |
| | | 合計(a+b+c) | 21,295 | 17,747 | 29,714 | |
| | 執行額(百万円) | 20,334 | 16,271 | 26,190 | | |
| 施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの) | 第189回国会 平成27年3月13日衆議院内閣委員会・平成27年3月24日参議院内閣委員会 山口内閣府特命担当大臣所信表明演説(関係部分)「中国における遺棄化学兵器の問題につきましては、化学兵器禁止条約上の我が国の義務を誠実に履行するため、引き続き廃棄事業を着実に進めてまいります。」 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------|-------------------------|------|-------------|------|------|------|------|------|----|
| 測定指標 | 年度計画の遺棄化学兵器処理数の割合 | 基準値 | 実績値 | | | | | 目標値 | 達成 |
| | | 25年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 26年度 | 達成 |
| | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | |
| | 年度ごとの目標値 | | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | |
| | 会議等における日本側の取組に対する中国側の評価 | 基準 | 施策の進捗状況(実績) | | | | | 目標 | 達成 |
| 25年度 | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 26年度 | 達成 | |
| 肯定評価 | | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | | |
| 年度ごとの目標 | | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | 肯定評価 | | | |

| | | |
|------|---------------|--|
| 評価結果 | 目標達成度合いの測定結果 | (各行政機関共通区分) 目標達成 (判断根拠) ・遺棄化学兵器の廃棄処理については、日中の協議にしたがい、各年度における遺棄化学兵器廃棄処理を適切に実行しているため、目標達成と判断した。 ・平成27年3月に実施した日中共同グループ会合において、中国側より「中日関係が良い時も悪い時も、本件事業が着実に進んでいるとの日本側の評価に完全に同意する。」という発言があったことから目標達成と判断した。 |
| | 施策の分析 | (課題等) 中国における遺棄化学兵器の処理事業であり、遺棄化学兵器の廃棄に向けて着実に進めていく必要があり、そのためには日中両国の協力が不可欠であると考え。 (有効性、効率性) 遺棄化学兵器の廃棄処理計画や実績は、中国と日本との協議の結果の処理数であるため、処理の目標は達成したものと判断する。(日中の協議は日々断続的に行っているところであるが、26年度に中国外交部と実施した日中実施当局間協議は6月と2月に実施。) なお、平成26年度末までに、遺棄化学兵器52,322発を発掘・回収(OPCW申告ベース、外務省の発掘・回収分を含む)し、そのうち37,550発を廃棄処理しているところである。(26年度は2,074発の発掘・回収(OPCW申告ベース)及び486発の廃棄処理を実施) |
| | 次期目標等への反映の方向性 | 【施策】 遺棄化学兵器の処理を適切に実施していくことを確認するために、現在の目標を引き続き維持していく。 【測定指標】 遺棄化学兵器処理事業の進捗状況を確認していくためには、処理計画数と実際の廃棄処理状況を定量的に確認していく必要がある。さらに事業の特性上、中国からの評価を踏まえる必要があることから、現在の測定指標を引き続き次期目標としていく必要がある。 |

| | |
|-----------------|---|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | — |
|-----------------|---|

| | |
|---------------------------|--|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | ○遺棄化学兵器処理担当室ホームページ「有識者会議資料」(http://www.cao.go.jp/acw/index.html) |
|---------------------------|--|

| | | | | | |
|-------|-------------|--------|--------------|----------|---------|
| 担当部局名 | 遺棄化学兵器処理担当室 | 作成責任者名 | 参事官(総務) 萬屋 正 | 政策評価実施時期 | 平成27年8月 |
|-------|-------------|--------|--------------|----------|---------|